

ケロちゃん通信 第29号

2017年 11月



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック
〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1
電話番号 0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryuu-seikyuu.jp/>

診療案内

☆街中も紅葉の季節になりました。一段と寒くなり、暖房が必要な日も増えてきました。季節の変わり目です、体調にはお気を付けください。

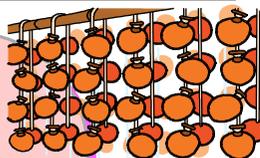
☆夏からのRSウイルス感染症の流行もまだ続いています。水痘、おたふくかぜも散発的な発生が見られています。

☆インフルエンザワクチン接種も始まり、来院数も増えていますが、予約システムのおかげで、昨年のように1-2時間待ちということもなく、混雑は緩和されていると思います。

☆今年はインフルエンザワクチンの供給量が少なく、かつ遅いため、皆様にご迷惑をおかけし、申し訳ございません。年末までに75%のワクチンは供給される予定ですが、12月末になってようやく残りの25%のワクチンが供給され、総数でも昨年よりやや少なくなる(95%くらい)見込みだという連絡がきております。現在、すでに在庫に対する予約数に達しており、しばらく新規予約は休止させていただいております。12月の供給が確定しましたら再度ご予約を受けたいと思います。供給量に合わせた予約しか出来ないのが現状ですが、皆様にご迷惑をおかけすることのないように、がんばりたいと思いますので、ご理解よろしくお願いたします。

11月の診療予定

- ・本間医師 (10日午前・午後 17日午前)
- ・インフルエンザワクチン専用外来11日 (土) 13:45-16:15
- ・臨時休診日 ありません



受付開始: 一般診療は午前8時30分、午後15時30分です。

☆一般診療

直接来院の場合は、診療時間内に受診してください。
予約希望の場合は、前日0:00からスマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください。
付き添いのお母さん等が体調不良の時も、お気軽にご相談ください。緊急の場合や、特別な相談がある場合には、まずお電話ください。

☆**予防接種、乳児健診**: スマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください(2ヶ月後の予約までできます)。今まで通り、窓口または電話でご予約もできます。

☆専門外来

①**発達外来(第2・4火 13:30~15:30、予約制)** 小児神経専門医による診療を行っています。言葉が遅い、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくを起こしやすい等の発達障害をご心配されている方、ひきつけ、チック、夜尿症などの発達や神経に関する心配がある方は、お気軽にご相談ください。

②**アレルギー外来(第1・3金 9:00~12:00 予約も可)**
アレルギー専門医による診療を行っています。食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、花粉症等で心配がある方は、ご相談ください。

☆発達外来、アレルギー外来受診希望の場合には、電話で予約をお願いいたします。(Web予約はできません)

☆生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。

母乳点鼻ってなあに？

- 6ヶ月くらいまでの赤ちゃんは、お母さんからの免疫物質のおかげで、熱を出すような風邪をひくことは少ないですが、一番困るのは鼻づまりでおっぱい・ミルクが飲めない、夜眠れないというようなことではないでしょうか。そんな時、赤ちゃんの鼻にスポイトで母乳をたらしてみましよう
- まずは、新鮮な母乳をスポイトに少量吸ってください。赤ちゃんを仰向けに寝かせ、赤ちゃんの様子を見ながら鼻に片方ずつ1.2滴ポトポトたらしてください。あふれた分はふき取ってください。そのあと、できれば鼻吸い、鼻吸引してあげると尚いいと思います。これを1日1-2回行うだけです。
- たかが鼻づまり、されど鼻づまり。鼻水・鼻づまりは、中耳炎、気管支炎のもとでもありますし、万病のもとと言われています。鼻炎、鼻づまりには特効薬はありませんし、母乳で鼻づまりが楽になれば薬の副作用も気にする必要もありませんし、これほどよいことはありません。薬を使わなくても（使っても鼻水を柔らかくする程度の作用しかありません）、母乳と吸引でなんとか乗り切れることも多いと思います。赤ちゃんの鼻づまりの治療の選択肢に加えてみてください。
- 母乳はお母さんの血液から作られるものですし、感染の防御因子（免疫グロブリン、リゾチーム、ラクトフェリン）を多く含みます。母乳は浸透圧もちょうどよいので、鼻が痛くなることもありません。もう少し大きくなったら生理食塩水で点鼻するのもよいみたいです。母乳が万が一、気管や肺に入っても感染を引き起こしません。点鼻だけでなく、母乳の点眼、点耳いずれも効果があると言われています。赤ちゃんの湿疹に保湿剤のかわりに母乳を塗ったらよくなったというお話も聞きます。本当に安全な万能薬です。

- 太古の昔より母乳は、赤ちゃんの栄養だけでなく、弱った病人や老人の栄養として使われてきたり、薬として重宝されてきました。目の病気の点眼、寄生虫の治療にも使われていました。母乳の感染予防効果、アレルギー疾患の予防効果、がん、糖尿病、乳児突然死症候群のリスクの減少効果もあることが知られています。母親が接触することの多い病原体は児が接触する可能性が高い病原体といえます。母親は豊富にこれらの病原体に対する特異的IgA抗体を有し、それは母乳中に分泌され赤ちゃんにも与えられます。母乳栄養は母親と児の環境に存在する病原体から、自然と児を守ることになりまます。乳汁を分泌させるオキシトシンというホルモンも、愛情ホルモンとして愛着や安心を与える重要なホルモンとして知られています。
- ただ昔から行われていることではあるのですが、小児科や母乳の教科書や文献をみてもあまり記載はなく、科学的に効果が証明されていないのも事実です。ただ証明されていないということ、効果がないということは別です。上記のように安全で、かつ効果があることは経験的に知られています。母乳点鼻は、積極的に勧めている医院も多くありますが、地域差があるのも確かです。
- 母乳のお話ばかりになりましたが、母乳栄養のみ賛美しているわけではありません。母乳でもミルクでも混合でも、一番大事なのは愛情です。しっかりと抱きしめて、笑顔であげれば、それが一番です。
- 母乳栄養のお母さんで鼻水・鼻づまりを楽にする方法として参考にしていただければ幸いです。

